

銅・アルミ

市況見通し

9月

銅

電線出荷量は同4・7%減の5万2300ト。7月の伸銅品生産で、うち国内が同4・9%減、輸出が同0・5%増だった。

銅輸入は、電気銅が同253・8%増の8万4030トで、7カ

月連続のマイナスだった。それでも引き続きマイナ

ス幅は小さく、7月の銅輸出量は大きく減らしている。例えばマレーシアや香港向けが5割減、タイや韓国向けが3割減、台湾向けに至っては7割減。しかし、日本からの銅スクラップの最大輸出先・中国向けだけは、ほぼ昨年並みの数パーセントの

輸出先は、昨年より111万円から117万円と高値安定だった。8月の電気銅建値は

銅スクラップ景況予想

111万円から117万円と高値安定だった。8月の電気銅建値は

銅スクラップの主要輸出先は、昨年より111万円から117万円と高値安定だった。8月の電気銅建値は

銅スクラップの主要輸出先は、昨年より111万円から117万円と高値安定だった。8月の電気銅建値は

銅スクラップの主要輸出先は、昨年より111万円から117万円と高値安定だった。8月の電気銅建値は

銅スクラップの主要輸出先は、昨年より111万円から117万円と高値安定だった。8月の電気銅建値は

銅スクラップの主要輸出先は、昨年より111万円から117万円と高値安定だった。8月の電気銅建値は

銅スクラップの主要輸出先は、昨年より111万円から117万円と高値安定だった。8月の電気銅建値は

銅スクラップの主要輸出先は、昨年より111万円から117万円と高値安定だった。8月の電気銅建値は

銅スクラップの主要輸出先は、昨年より111万円から117万円と高値安定だった。8月の電気銅建値は

銅スクラップの主要輸出先は、昨年より111万円から117万円と高値安定だった。8月の電気銅建値は

橋本アルミ取締役 橋本 健一郎氏レポート



9月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	7500~8500*	横ばい
電気銅建値	99~127万円	横ばい
為替(1%)	135~145円 (1カ月間TTM)	円安

た。前月に続きコロナによる生産減に伴うスクラップ発生減で、出物が無く在庫薄となっている。需要面では上海ロケットタウンにみる中国の部品調達の遅れに伴い、自動車生産および販売は大幅な減少傾向となっている。伸銅品の需要は、一部品目でリモートワークに伴い減少しているが、全体としては旺盛な状況。自動車関連向け製品は在庫積み上げが完了したとの報告もあり、需給は今後、やや緩む可能性がある。

LME銅・為替予想

今月は「米欧の金融政策(中国のコロナ対策(ロックダウン))に左右される。前者は、引き締め一辺倒であったFRB(連邦準備理事会)がここに来て米金融局による政策の引き締め度合いに関する織り込みが後退した。9月は若干利上げ幅が後退するのではないか予想

二次合金・同合金地金が増加した。生産は同15・5%減の6万1138ト(11カ月連続の減少)。出荷は同15・1%減の11万1172ト、アルミニウムは同14・6%減の6万7306ト、アルミニウムスクラップが同41・8%増の431ト、アルミニウムスクラップが同14・1%増の554トだった。アルミ輸入は、円安による割高感から新地金・二次合金が減少した。

アルミスクラップ景況予想

前月に引き続き欧米の金融引き締め策に伴い、LME価格は2400~2500*と低位安定。自動車生産減の中、「流通(二次問屋)の入荷も少ない見通し。需要面は、新たに中国四川省の成都がロケットタウンし、サプライチェーンが不安定。自動車生産、住宅着工ともに振るわないが、メーカー在庫は底までついてきている。このため在庫補充の買いは見込める」と見ている。

9月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買値	2200~2500*	横ばい
スクラップ	ゼロ円~プラス5円 (前月最終価格より)	横ばい